



「新技術を活用した危険物施設の保安設備等に関する研究会(第2回)」開催報告

危険物施設における保安設備等への新技術の活用を目的に、「新技術を活用した危険物施設の保安設備等に関する研究会(第2回)」を開催し、約40名の方々にご出席いただきました。

1 概要

近年、様々な分野で監視カメラ技術、ドローン技術、IoT技術等の新たな技術が活用されています。

今後、危険物施設においても、これらの新技術を活用した保安設備等の導入や普及が見込まれることから、人の目に替わる点検手段、データを用いた危険予兆など、大規模危険物施設等における維持管理や災害早期発見についての方策として、これらの新技術を活用した保安設備等について、貴重な御意見、提言などをいただきました。

2 開催日等

- (1) 日時：令和元年8月27日(火) 14時から16時まで
- (2) 場所：危険物保安技術協会 大会議室

3 出席者

- (1) 行政機関 (消防庁危険物保安室、消防庁特殊災害室、消防庁消防研究センター、横浜市消防局、川崎市消防局、四日市市消防本部、堺市消防局)
- (2) 事業所等 (石油連盟(太陽石油株式会社、昭和四日市石油株式会社)、石油化学工業協会(JSR株式会社)、一般社団法人日本化学工業協会(花王株式会社、住友化学株式会社、株式会社ダイセル)、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、北海道石油共同備蓄株式会社、日本メンテナンス工業会、一般社団法人非破壊検査工業会(日本工業検査株式会社))
- (3) その他、新技術開発メーカー

4 内容(3D保安高度化データプラットフォームとバーチャルプラント)

- (1) 発表
 - ア 3D保安高度化データプラットフォーム
 - イ バーチャルプラントリアリティー
- (2) 意見交換
 - ア データプラットフォームについて
 - (ア) 行政機関
 - ・3Dで現場を確認できれば、想像しやすいと思う。
 - ・規制側としても、立体的に見ることができるのは有効であると思う。
 - (イ) 事業所等
 - ・過去の検査箇所の把握に時間を要していたが、現実と同じ配置であることから、指示等が正確にできるようになると考える。
 - ・既設施設の3D化に要する時間が気になる。
 - イ バーチャルプラントリアリティーについて
 - (ア) 行政機関

- ・バーチャル内でロボットを走行させ、アルゴリズムの確認に活用できることを期待する。
 - ・過去の事故事例を反映させるなどして、教育訓練への活用が期待できる。
- (イ) 事業所等
- ・訓練できる環境が少なくなっていることから、教育訓練でバーチャルを使用し、わかりやすくできることが期待できる。

5 実施状況



研究会風景

6 次回開催予定

- (1) 日時：令和元年10月24日（木） 14時から16時まで
- (2) 場所：危険物保安技術協会 大会議室
- (3) 内容：コニカミノルタ株式会社による
「赤外線カメラによるガス監視システム」について

問い合わせ先
危険物保安技術協会
企画部企画課 中村
電話 03-3436-2353
FAX 03-3436-2251